大正中学校

地域の特性や人材を活かした「地域連携」のカタチ。

学校の特色と地域の強みの連携

ソフトボールが盛んな四万十町。大正中学校ソフトボール部も、過去に全国制覇の功績を残す強豪校です。

しかし近年、少子化による部員不足で単独ではチームが組めず、現在は窪川中学校と連合チームを組み活動しています。お互いの生徒たちは、小学生の頃から大会などで頻繁に顔を合わせていた間柄。この地域性が「連合」となった時に相乗効果を生み、昨年夏の全国大会では準優勝を果たしています。

また、ジャズ演奏が特色の音楽部は、地域のサックス奏者が外部指導員として、子どもたちにサックスの指導を行っています。

ソフトボールが根付いている地域の強み、ジャズという学校の特色、それらを地域とうまく連携させた部活動の運営が行われています。

「新たなカタチ」を指導者と生徒はどう見る!?

顧問　木下 麻里（まり） さん

専門性の高い指導が求められるから助かります

楽器の種類によって特徴が違うので、専門性が高い指導が求められます。私はトランペットが専門なので、外部指導員の方にサックスを指導してもらえて、本当に助かっています。生徒たちの努力もありますが、指導員のおかげで音楽部の技術も安定してきています。技術指導だけでなく、放課後の会議などで練習に顔を出せない時に、練習を見てもらえることも大変助かっています。

副主将　木村 風翔（ふうと） さん

この連合チームで絶対に日本一になる

窪川中学校との連合チームの方が、全然楽しいです。小学校の時からみんなソフトボールをしていて、よく大会でも会っていたし、その時はチームも違うから何度も対戦したりして。だから、どんな選手かはだいたい最初から分かっていました。そんな仲間と同じチームで活動できることがうれしいです。

今年の夏、絶対にこの連合チームで日本一になります。

十和中学校

部員不足を救う「連合」というカタチ。

他校の球児と白球を追う「野球部」

今年度から校名を変更し、新たなスタートを切った十和中学校。部活動は野球部、バレーボール部、陸上部の3つの運動部です。

全校生徒の約9割に当たる生徒がいずれかの部に所属し、掲げた目標に向かって、日々仲間と共に汗を流しています。

しかし、少子化による部員不足は深刻で、伝統ある「野球部」も近年、単独ではチームが組めない状況となっており、近隣中学校との連合による活動が続いています。

昨年夏、3年生が引退し、部員が7名となった野球部は、久礼中学校と連合を組み、週1回の合同練習でコミュニケーションを図りながら、この夏の選手権大会に向け白球を追っています。

「新たなカタチ」を指導者と生徒はどう見る!?

顧問　川上 悠磨（ゆうま） さん

連合により芽生える競争意識とチームワーク

他校と連合を組むことで、生徒たちの交流の場が広がり、競争意識も芽生え、一人一人がレギュラーを目指してやる気になっています。

もちろん、単独での活動ではないので苦労する面もあります。特に、合同練習の会場までの送迎は、保護者の大きな負担にもなっています。お互いの学校行事の日程も異なるので、練習試合などの日程調整も大変です。

主将　武内 颯汰（そうた） さん

一緒に野球ができて、試合に出られるのがうれしい

久礼中の生徒と一緒に野球ができることが楽しいし、何より試合に出られるのがうれしい。でもコミュニケーションをとるのは難しいです。連合を組んだ当初は、知らない生徒ばかりでやりにくくて、内野手の連携プレーなどがうまくいかなかったことも。

合同練習を重ね、徐々にチームワークも良くなり、今ではエラーした久礼中の生徒にも「あれは捕れるやろ」って平気で言えるようになりました。